

---

ごめん・・・。

朱璃

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ごめん……。

### 【Nコード】

N0678Z

### 【作者名】

朱璃

### 【あらすじ】

新一が本当の姿に戻って、10年後。

新一の思い出を語っていく。10年後の世界も出てくる。

## プロローグ（前書き）

初めての投稿なので、ぎこちなく、間違いもあるかもしれませんが  
読んでください。感想とかもお待ちしています。

## プロローグ

哀「く……工藤……くん……」

コナン「灰原！」

哀「……………」

コナン「は、灰原あ」

ファツ。

夢……。また、見た。最近は、あまり見なかったのに。

もう、あの日から10年も過ぎた。

今は、自分の家で蘭と住んでいる。俺は、10年前に本当の姿に戻った。10年前の苦しみは、思い出しかない。

蘭は、待っていてくれた。今日は、蘭が園子と一緒に買い物に行くと言っていた。家には、俺1人しかない。隣の家は、誰もいない。博士は、思い出の少女と結婚して世界中を飛びまわっている。思い出の少女の名前は何だったかな？

哀は……。哀はいない。アポトキシン4869を完成させ、組織との決着の時に俺をかばってジンに撃たれた。そして、死んだ。そのあと、組織はFBI、CIAにつぶされ、ジンはベルモットに殺され、その他は、警察に捕まった。ベルモットは、とつくに組織を抜けていたから、2年前に釈放された。

## プロローグ（後書き）

どうでしたか？

私なりには、これからもっと明らかになるのでこれからもよろしく  
お願いします！

会議（前書き）

続きです（^ - ^）  
v

## 会議

蘭もない。俺は、アルバムを持ってきた。第2の小学校生活の写真だ。蘭がしっかりと整理してくれたから見やすい。

そつだ、昔はこいつらとよく遊んだな。博士の家に行ったり、事件を解決したり。楽しかったのか？蘭を待たすはめになったのは後悔したが、いい思い出なのかもしれない。

10年前。

歩美「コナンくん、また明日ね」

光彦「では、また。」

元太「またなあ」

コナン「ああ、またな。」

そついつて俺は、3人と別れた。灰原は、今日学校を休んだ。理由は、解毒剤の副作用で発熱したから。あれほど、自分で試すな。つて言ったのにまるで聞かない。

俺は、1度家に帰った。家というのはもちろん毛利探偵事務所。家に帰ると蘭がいた。

蘭「おかえり。さつき、博士から電話があったよ。何だかすごく慌てて、コナンくんが帰ったらすぐに来るようにと言っていたわ。」

コナン「わかった。行ってきます。」

俺は、もともと博士の家に行くつもりだった。スケボーを走らせ、博士の家についた。

中に入ると、博士、灰原、そして俺の父さんと母さんがいた。奥から出てきたのは、ジヨデイ先生とジェームズさん。そして服部だった。7人は、俺を見て「おかえり」と言った。そして、数秒間の沈黙。沈黙を破ったのは珍しく、灰原だった。

哀「江戸川くん、よく聞いて。あの組織の本拠地が分かったの。」

俺は、びっくりした。でも、ジヨデイ先生も、

ジヨデイ「本当よ。コナンくん。千葉県の大きなビルなの。」

ジェームズ「その事で、今日は集まってもらったのだ。」

コナン「本当！？でも、どうするの?」

博士「その事を、今日決めるそうだ。」

哀「とにかく、私は行かせてもらっわよ。薬の事とかもあるし。」

コナン「おい、灰原。」

ジヨデイ「大丈夫よ。さつき哀ちゃんにすべて聞いたから。」

そして、小さな会議をした。会議の結果、灰原と俺はジヨデイ先生と共に、突入捜査班にいれてもらった。

服部はさっき現れたキッドと共に、外部の事をしてもらうことにした。

父さんと母さんと博士は、なにもせず、見守るということになった。そして、突撃の日は、1週間後の日曜日。今日は金曜日。突撃まで、9日。

会議（後書き）

どうでしたか？頑張りますので引き続きよろしくです）＾・＾（  
∨

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0678z/>

---

ごめん・・・。

2011年12月2日20時53分発行